

基本目標1

産業を振興し魅力的な雇用を創る

【地域産業振興戦略】

<具体的な施策>

- 1 企業誘致の推進と雇用の創出
- 2 地元企業育成と起業・創業支援の強化
- 3 農業の担い手確保と成長支援

基本目標2

地域の魅力を高め、ひとの流れと賑わいを創る

【魅力アップ・賑わい創造戦略】

<具体的な施策>

- 1 地域資源を活かした観光戦略の推進
- 2 拠点エリア整備による賑わいの創出
- 3 行田の魅力発信

基本目標3

市民が希望する結婚・出産・子育ての環境を創る

【子ども安心育成戦略】

<具体的な施策>

- 1 結婚・妊娠・出産・子育てのライフステージに応じた支援
- 2 子育てと就労の両立支援
- 3 行田の未来を担う人材育成

基本目標4

時代に合った活力ある安心な地域を創る

【地域活力創造戦略】

<具体的な施策>

- 1 時代に合った地域マネジメントの推進
- 2 地域コミュニティの連携強化
- 3 健康長寿づくりの推進

■ 基本目標の数値目標、具体的な施策のKPIの凡例

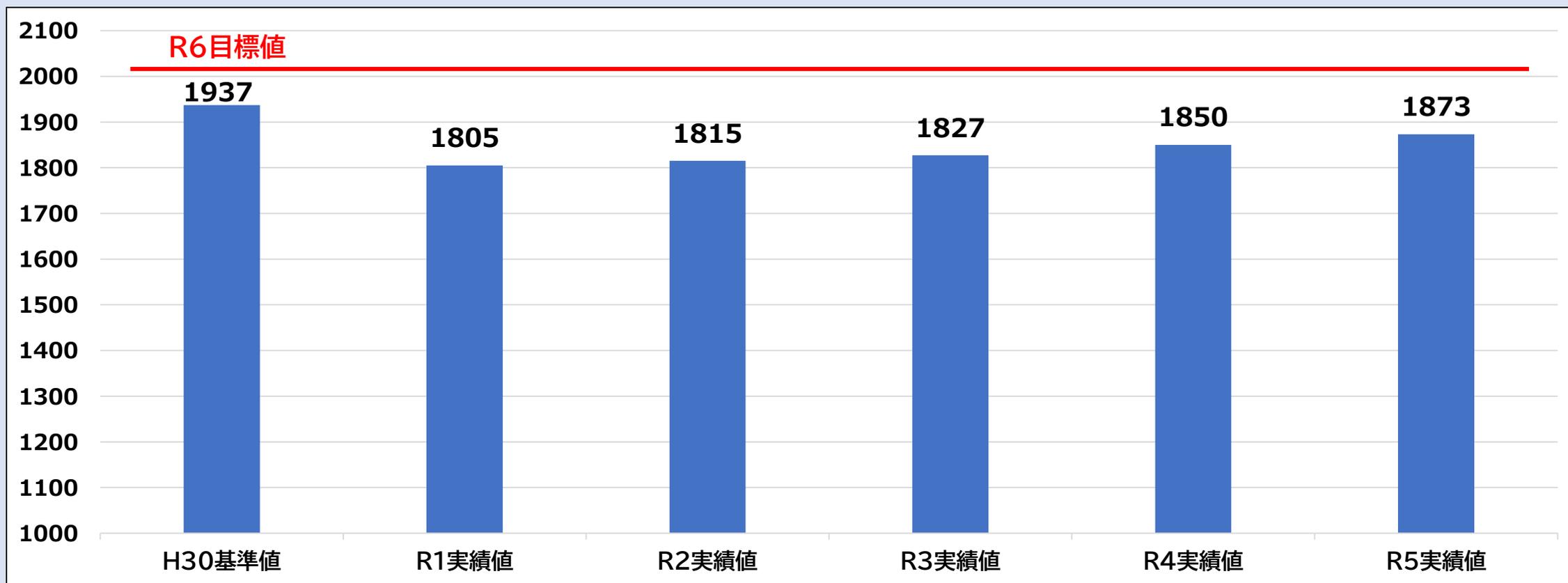
種類	達成状況
	目標値を達成しているもの
	目標値は達成していないが数値が上昇(30%以上)しているもの
	目標値は達成していないが数値が微増(30%未満の上昇)または横ばいに止まるもの
	数値が悪化しているもの

基本目標1 産業を振興し魅力的な雇用を創る【地域産業振興戦略】

◆数値目標

指標名	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標値	達成状況
市内企業数(※)	社	○	1,937	1,805	1,815	1,827	1,850	1,873	2,010	

※法人市民税均等割の納税義務者数



(1) 企業誘致の推進と雇用の創出

A. R5年度に実施した主な事業

- ◆ 富士見工業団地拡張地区における産業団地整備の推進
- ◆ 企業立地奨励金の交付(施設設置奨励金4件)
- ◆ R5.10に企業誘致課を新設

B. KPI(重要業績評価指標)の状況

KPI	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標値	達成状況
富士見工業団地拡張地区 産業団地における雇用者数	人	○	-	-	-	-	-	-	250	-

C. 課題や今後の取組み予定

- 企業を誘致する土地や開発可能な土地が少ないことから、都市計画マスタープランの土地利用構想を見直しし、国道、県道及び主要な市道沿線で土地利用が可能な箇所を産業系土地利用検討ゾーンとして位置付けることで、開発の可能性のある土地を創出する
- 富士見工業団地拡張地区における産業団地整備の完了が遅れていることから、R6年度末の整備完了に向けて、引き続き、県企業局との協議、調整を行う
- 引き続き、企業立地奨励金を交付する(施設設置奨励金1件)
- 新たな産業団地の整備に向け、引き続き、整備手法等を検討するため、関係課、関係機関との協議、調整を行う

(2) 地元企業育成と起業・創業支援の強化

A. R5年度に実施した主な事業

- ◆ 創業支援ワンストップ相談窓口
- ◆ 起業家支援事業補助金(5件交付)
- ◆ チェレンジショップ事業(1店舗)

B. KPI(重要業績評価指標)の状況

KPI	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標値	達成状況
起業・創業支援件数	件	○	—	3	10	16	21	26	35	

C. 課題や今後の取組み予定

- 創業時の様々な課題に対する支援等を実施するため、引き続き、市役所内に創業支援のワンストップ相談窓口を設置し、行田商工会議所、南河原商工会、地域金融機関、埼玉県産業振興公社等と連携して新規に起業する方を支援する
- 特定創業支援等事業を通じ、これから市内で創業される方、創業後間もない方に「経営」「財務」「人材育成」「販売の方法」の知識習得を目的としたセミナーや個別創業相談などを関係機関と連携して行うなど、市内における創業支援を実施する
- 起業家支援事業について、R6年度から創業支援の内容を充実化したことから、更なる利用促進を図る
- 市民の就業の促進や市内企業の持続発展を図ることを目的として、R6年度から新たに公的資格等取得支援事業を実施する
- エコノミックガーデニング事業に係る支援団体との連携を強化し、支援機関の役割や支援できる内容など企業情報の充実化を図ることで、企業の地元中小企業のビジネス環境の整備を図るを検討する

(3) 農業の担い手確保と成長支援

A. R5年度に実施した主な事業

- ◆ 「攻めの農業支援事業補助金」によるスマート農業等の促進(7件交付)
- ◆ 農地中間管理事業
- ◆ 行田ブランド農産物の育成支援(行田在来枝豆、青大豆)
- ◆ 地産地消の推進

B. KPI(重要業績評価指標)の状況

KPI	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標値	達成状況
農地中間管理事業取組面積	ha	○	209	284	340	386	433	488	380	↑
大規模ほ場(30a以上)整備率	%	○	31.0	31.2	31.8	32.0	32.0	32.0	32.0	↑
農地所有適格法人数	件	○	8	8	11	11	11	19	16	↑
担い手育成支援件数	件	○	6	6	6	8	10	10	10	↑
攻めの農業支援事業取組数	件	○	8	13	16	25	33	40	26	↑
ブランド化推進品目	件	○	2	2	2	2	2	2	3	→

C. 課題や今後の取組み予定

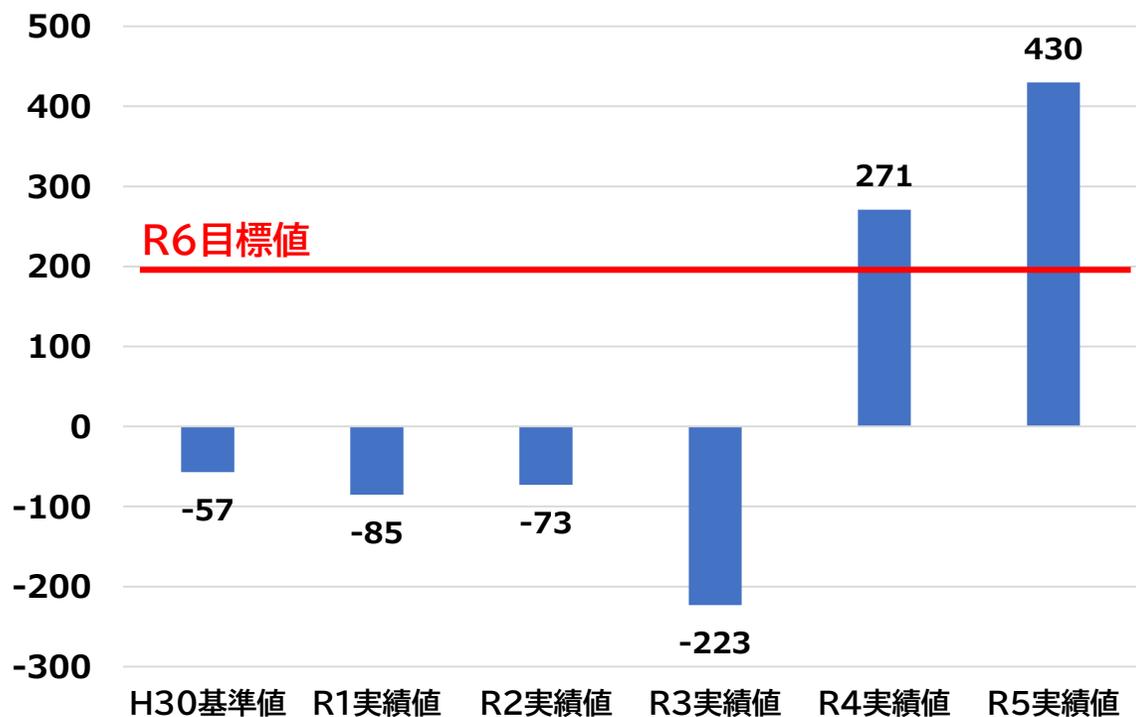
- 農地中間管理事業については、埼玉県農林公社等と連携し、取組面積の更なる拡大を図る
- 攻めの農業支援事業について、R6年度から補助金採択時におけるポイント制を導入したほか、翌年度以降に効果検証等を実施することで、事業の有効性の向上を図るとともに、必要に応じて事業の拡大を検討し、更なるスマート農業等の促進を図る
- 行田ブランド農産物について、更なる知名度の向上や販路拡大に向けて、様々なイベント等を通じて多方面へ働きかけを行っていく

基本目標2 地域の魅力を高め、ひとの流れと賑わいを創る【魅力アップ・賑わい創造戦略】

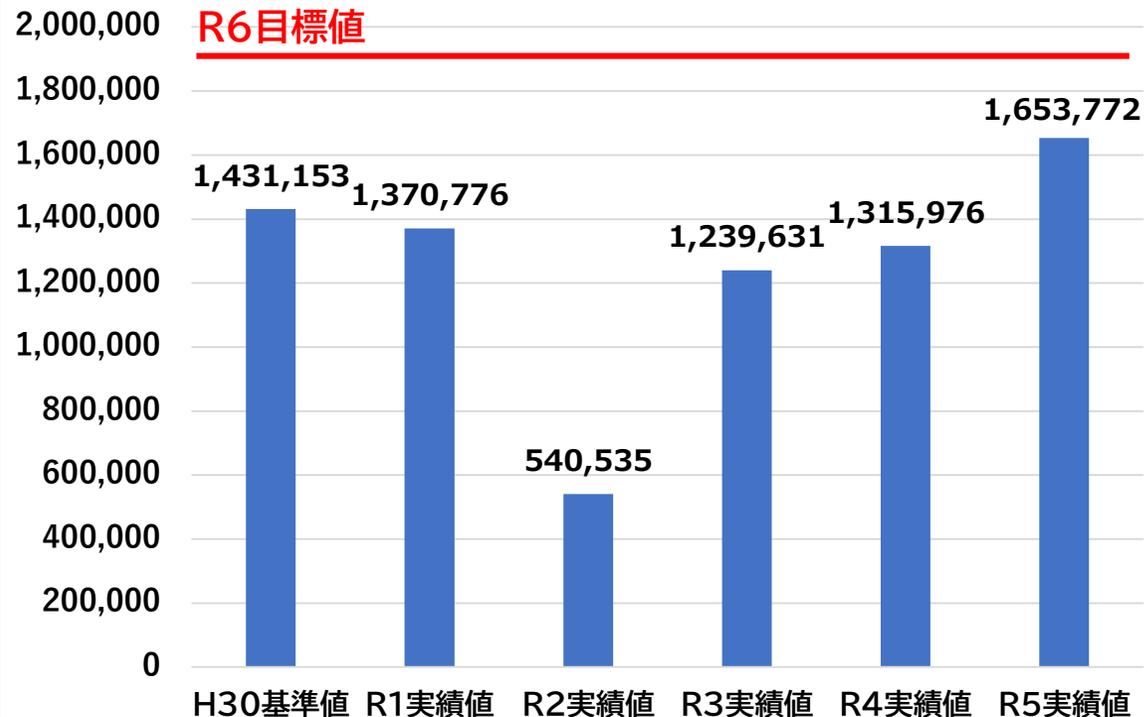
◆数値目標

指標名	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標値	達成状況
人口社会増減数	人		△57	△85	△73	△223	271	430	200	↑
観光入込客数	人		1,431,153	1,370,776	540,535	1,239,631	1,315,976	1,653,772	1,900,000	↗

人口社会増減



観光入込客数



(1) 地域資源を活かした観光戦略の推進

A. R5年度に実施した主な事業

- ◆ R5年4月に観光物産館さきたまテラスを開業
- ◆ 「行田花手水week」及び「希望の光」の開催
- ◆ フィルムコミッション事業
- ◆ R6年3月にヴェールカフェ(旧忍町信用組合店舗)をリニューアルオープン
- ◆ 「忍城下花手水タウンプロジェクト」の開催
- ◆ 田んぼアート米づくり体験事業

B. KPI(重要業績評価指標)の状況

KPI	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標値	達成状況
観光協会(DMO)ウェブサイト閲覧回数	件		—	377,733	976,246	1,653,327	1,601,958	1,297,670	550,000	↑
ぶらっと♪ぎょうだ売上額	円		13,349,875	9,465,107	8,103,220	41,884,528	55,447,517	40,725,271	20,000,000	↑
主要観光施設(※)入込客数	人		444,447	453,808	231,109	714,115	724,931	908,972	500,000	↑

※古代蓮会館及び駐車場・郷土博物館・さきたま史跡の博物館・はにわの館・ぶらっと♪ぎょうだ、さきたまテラス、行田八幡神社の7施設、花手水ライトアップイベント「希望の光」の来場者数

C. 課題や今後の取組予定

- 「行田花手水week」及び「希望の光」を引き続き開催するとともに、行田花手水タウン特別企画を実施することで、更なる観光誘客や観光消費拡大を図る
- 埼玉県及び(一社)埼玉県物産観光協会と連携のもと、海外の現地旅行会社に本市の観光資源をセールスし、インバウンドの誘客につなげる
- 観光客の志向がモノ消費からコト消費に変遷していることを受け、忍城をロケーションとした「SAMURAI体験」や「忍者体験」、日本遺産「行田足袋」を活かしたガイドツアーを新たに造成する

(2) 拠点エリア整備による賑わいの創出

A. R5年度に実施した主な事業

- ◆ 八幡通り沿線の修景整備(ふるさとづくり事業補助金1件交付)
- ◆ JR行田駅前広場周辺の再整備(駅周辺の賑わい創出に向けた準備)
- ◆ 行田はちまんマルシェを毎週日曜日に定期開催

B. KPI(重要業績評価指標)の状況

KPI	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標値	達成状況
八幡通り歩行者通行量	人		—	1,240	—	—	1,859	—	1,370(R4)	
ふるさとづくり事業補助件数	件	○	13	13	18	24	24	25	30	

C. 課題や今後の取組予定

- ふるさとづくり事業を通じて八幡通り沿線等の外観の改修や歴史的建築物の改修などに対して引き続き支援をすることで、まちなかの魅力度向上や賑わいの創出を図る
- 行田市駅周辺における歩道のバリアフリー化のほか来訪者が気軽に立ち寄ることのできる休憩スペース等の整備や、足袋蔵などの歴史歴建築物等の利活用にむけた検討を進めることで、まちなからの回遊性を向上させウォーカブルなまちづくりの推進を目指す
- JR行田駅前広場について、賑わい創出のため試験的にキッチンカーやイベントスペースとして活用できるよう整備を進める
- はちまんマルシェの更なる事業発展のため、多種多様な出店者を募るとともに、「行田在来枝豆・さきたまめ」を特産品としてブランド化し、マルシェでしか購入できない商品の販売を検討する

(3)行田の魅力発信

A. R5年度に実施した主な事業

- ◆ 行田市動画プロジェクト・チーム「IGZO GYODAプロジェクト」の設置(ぎょうだ動画チャンネルへの新規動画掲載48本)
- ◆ 移住・定住施策の推進(奨学金返還支援制度の創設)
- ◆ ふるさと納税の促進(寄付件数 8,666件、寄付額総額 127,972千円)
- ◆ 企業版ふるさと納税及びクラウドファンディング型ふるさと納税の実施

B. KPI(重要業績評価指標)の状況

KPI	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標値	達成状況
移住・定住ポータルサイトアクセス数	件		—	1,445	4,996	5,250	3,128	3,216	2,400	↑
YouTubeぎょうだ動画チャンネル総再生回数	件	○	143,012	183,581	252,269	326,684	364,229	434,076	320,000	↑
ふるさと納税寄付金額	円		21,600,000	27,151,000	31,000,000	54,079,500	86,998,000	127,972,500	35,000,000	↑

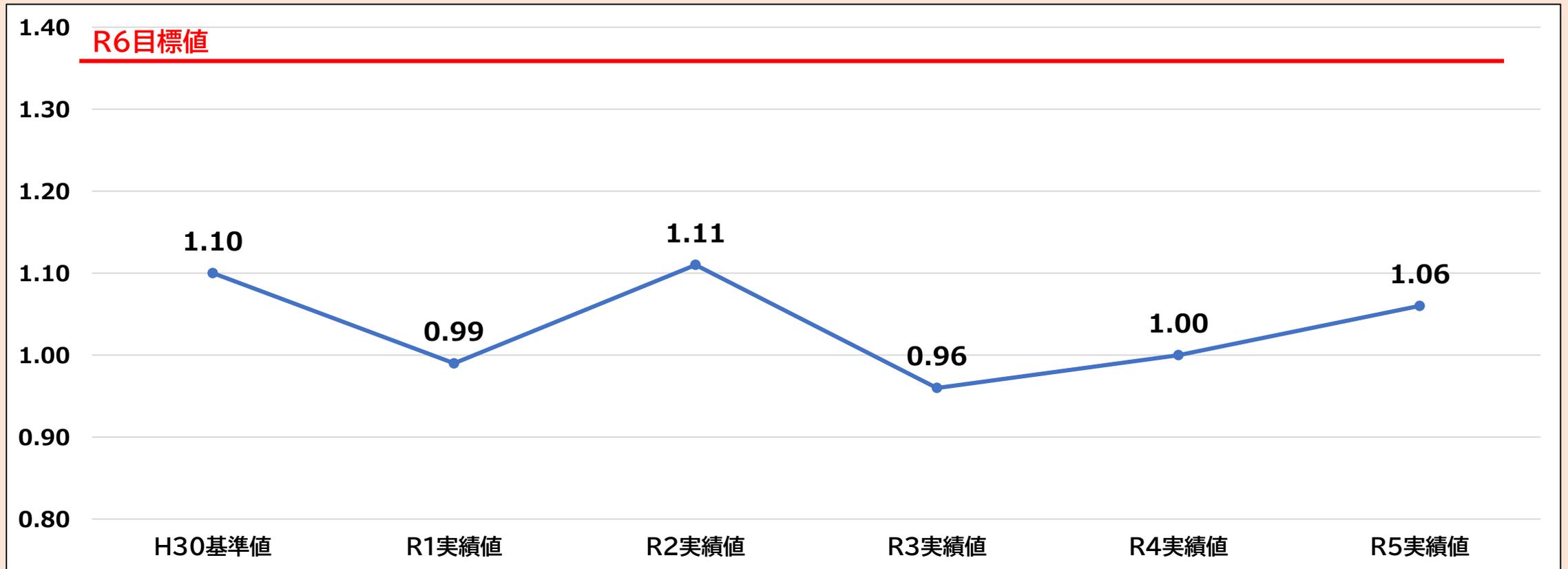
C. 課題や今後の取組予定

- 動画プロジェクト・チームが作成した市のPR動画に加え、市長のメッセージ動画や記者会見動画などを定期的に配信する
- 移住定住コンシェルジュを配置し、移住相談の対応や移住サイトの充実化のほか、移住セミナーなど各種イベントに参加することで本市の魅力を効果的にPRする。また、奨学金返還支援制度を通じて、若い世代を中心に移住・定住人口の増加を図る
- ふるさと納税の更なる促進のため、返礼品やポータルサイトを拡充するとともに、企業版ふるさと納税及びクラウドファンディング型ふるさと納税を活用して「行田タワー全国発射プロジェクト」を実施する

基本目標3 市民が希望する結婚・出産・子育ての環境を創る【子ども安心育成戦略】

◆数値目標

指標名	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標値	達成状況
合計特殊出生率			1.10	0.99	1.11	0.96	1.00	1.06	1.36	↓



A. R5年度に実施した主な事業

- ◆ 妊婦健康診査
- ◆ 子育て包括支援センター事業(赤ちゃんコンシェルジュ)
- ◆ 4か月児健康診査事業(個別)(受診者数:379人)
- ◆ 産科医等手当支給支援
- ◆ 不妊治療費助成事業(不妊治療2件、早期不妊検査4件、不育検査3件)
- ◆ 乳児家庭全戸訪問事業(366件)
- ◆ 地域子育て支援拠点事業(7か所)
- ◆ 子ども医療費支給事業

B. KPI(重要業績評価指標)の状況

KPI	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標値	達成状況
乳幼児健診受診率	%		92.06	91.7	95.8	94.90	95.50	97.90	98.00	
子育て包括支援センター相談件数	件		923	1,462	1,261	1,392	1,417	1,053	1,000	
地域子育て支援拠点利用者数	人		29,778	26,938	18,127	21,863	20,358	19,966	30,000	
こそだて応援訪問件数	件		10	8	2	0	0	0	10	

C. 課題や今後の取組予定

- 妊婦の健康状態や養育環境の向上を図るため、今後も妊婦健康診査や4か月児健康診査などを実施する
- 引き続き、不妊治療費の助成を行うことで、不妊及び不育症に悩む夫婦の経済的負担を軽減する
- 地域子育て支援拠点事業により子育てに関する相談、助言等を行うことで、子育ての不安感等を緩和し子どもの健やかな育ちを支援する
- 本市の未来を担う子どもを安心して産み、健やかに育てることができるよう、18歳までの医療費無償化を継続して実施する

(2)子育てと就労の両立支援

基本目標3 市民が希望する結婚・出産・子育ての環境を創る

A. R5年度に実施した主な事業

- ◆ 保育所等延長保育事業(3保育園、1認定こども園)
- ◆ ショートステイ事業・トワイライトステイ
- ◆ 放課後児童健全育成事業(19学童保育室)
- ◆ 多子世帯学校給食費給付
- ◆ 幼稚園等預かり保育事業(市内9園、市外7園)
- ◆ 病児・病後児保育事業
- ◆ ファミリー・サポートセンター事業
- ◆ 女性の活躍推進・キャリア形成支援セミナー

B. KPI(重要業績評価指標)の状況

KPI	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標値	達成状況
保育所待機児童数(4/1時点)	人		0	0	0	0	0	0	0	
学童保育室待機児童数(4/1時点)	人		87	83	0	0	0	0	0	
女性のキャリア形成支援のための講座参加者数	人		107	117	111	17	62	69	120	

C. 課題や今後の取組予定

- 保育士の確保や離職を防止することで、継続して保育園や放課後児童クラブにおける定員を確保する
- 本市の未来を担う子どもを安心して産み、健やかに育てることができるよう、国に先駆けて3歳未満児の保育無償化を行う
- 引き続き、延長保育や病児・病後児保育などを実施することで、就業形態の多様化における保育需要に対応していく
- 多子世帯の保護者に対し、児童・生徒の給食費補助を継続して行うことで、経済的負担の軽減を図る

A. R5年度に実施した主な事業

- ◆ 義務教育学校設立に向けた準備
- ◆ ICT教育の推進
- ◆ 学力向上支援教員の配置
- ◆ 英語教育の充実(ALTの配置)
- ◆ 教育環境の整備と充実
- ◆ 体力向上推進委員会による授業研究会の実施や体力向上だよりの発刊

B. KPI(重要業績評価指標)の状況

KPI	単位	累計	H30 基準値	R1	R2	R3	R4	R5	R6 目標値	達成状況
全国学力・学習状況調査で県平均を上回る科目数(小6)	科目		0/2	0/2	未実施	0/2	0/2	0/2	2/2	
全国学力・学習状況調査で県平均を上回る科目数(中3)	科目		0/3	0/3	未実施	0/3	0/3	0/3	3/3	
新体力テストで県平均を上回る種目数(小)(※)	種目		67/96	35/96	未実施	48/96	60/96	48/96	96/96	
新体力テストで県平均を上回る種目数(中)(※)	種目		47/54	33/54	未実施	27/48	29/48	38/48	48/48	
小中学校における不登校児童・生徒数	人		小11 中68	小13 中81	小18 中88	小 32 中106	小 39 中132	小 45 中136	小 7 中39	

※中学生の新体力テストは、R3年度以降種目数が減少したため、母数を減じている

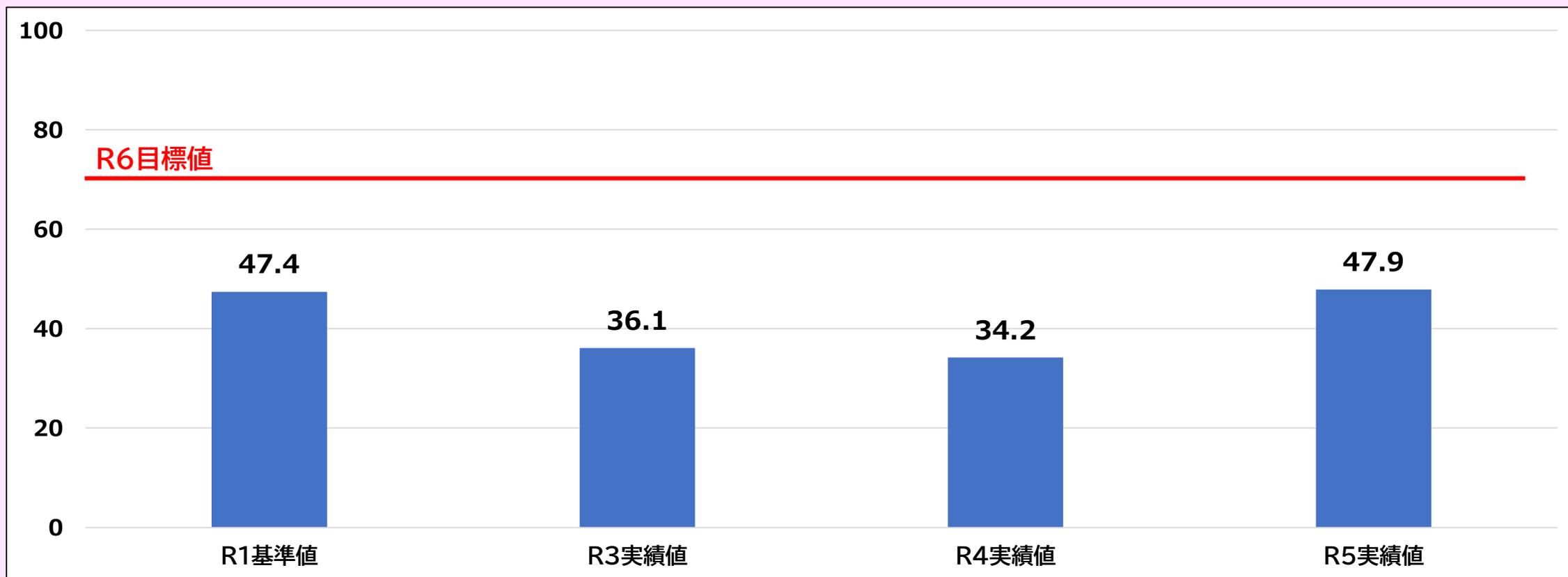
C. 課題や今後の取組予定

- 市内全小中学校を3校の「義務教育学校」に再編成する学校再編を進めるべく、その方向性を示す「再編計画骨子編」を作成する
- 小中学校ともに全国学力・学習状況調査で県平均を上回る教科がなかった。ICT教育の更なる充実や「学習支援教員」の継続配置による複数指導(チームティーチング)の実施などにより学力の向上を図る
- 小学校5年生、中学校2年生を対象として、年2回の学校集団アセスメント「Hyper-QU」(学校生活に対する満足度や意欲、悩みなど児童生徒一人一人の心の状態を把握する心理テスト)などいじめ・不登校対策を実施する

基本目標4 時代に合った活力ある安心な地域を創る【地域活力創造戦略】

◆数値目標

指標名	単位	累計	R1基準値	R3	R4	R5	R6目標値	達成状況
行田が「住みよい」と考える市民の割合	%		47.4	36.1	34.2	47.9	70.0	→



A. R5年度に実施した主な事業

- ◆ デマンドタクシー事業
- ◆ 空き家等バンク制度の運用(活用相談24件、登録3件)
- ◆ 公共施設マネジメントの推進
- ◆ 老朽空き家等解体補助事業(12件交付)

B. KPI(重要業績評価指標)の状況

KPI	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標値	達成状況
市内循環バス利用者数	人		236,301	238,142	166,929	183,654	194,909	206,384	260,000	
デマンドタクシー利用回数	回		22,295	24,772	22,919	26,946	27,983	27,491	30,000	
問題空き家の指導による改善割合	%	○	40.86	48.48	54.97	56.95	56.07	58.87	50.00	

C. 課題や今後の予定

- 行田市地域公共交通計画に基づき、市内循環バス、デマンドタクシー事業の見直しを実施し、効率的かつ利用者の多様なニーズに対応可能な乗合型AIオンデマンド交通を新たに導入した(R7年1月6日運行開始)
- デマンドタクシー事業はR6年12月28日をもって、市内循環バスのうち、利用者が極めて少ない3路線(東循環コース、北東コース、北西コース)はR7年3月31日をもって運行を終了して、乗合型AIオンデマンド交通へと吸収する再編を実施する
- 旧北河原小学校については、R5年度に引き続き、跡地利活用事業者による利活用を通じて地域活性化を図っていく。また、旧太田東小学校については、優先交渉権者が決定したことから、契約締結後、旧北河原小学校跡地と同様に利活用を推進していく。なお、旧須加小学校については、引き続き利活用策を検討していく
- 「空き家等バンク制度」のほか、R6年度から新たに「空き家の可能性見える化プロジェクト」を開始するなど空き家所有者に対する支援を行うことで、空き家の活用や適正な管理を促進する

A. R5年度に実施した主な事業

- ◆ いきいき・元気サポーター制度(活動延べ人数1,475人)
- ◆ 支え合いネットワーク(19件)
- ◆ 自主防災組織リーダーの育成(防災士資格取得人数79人)
- ◆ 自主防犯活動団体の設立及び育成支援

B. KPI(重要業績評価指標)の状況

KPI	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標値	達成状況
いきいき元気サポーター数	人		149	136	120	118	109	110	180	
支え合いネットワーク協定締結数	件		18	18	19	19	19	19	30	
防災訓練を実施している自主防災組織数	%		23.20	22.00	28.10	31.10	32.80	44.00	70.00	
自主防犯活動団体数	団体		165	166	168	168	170	169	175	

C. 課題や今後の取組予定

- いきいきサポーター自身の高齢化や仕事を定年退職した後も仕事をしている方が多く、新規サポーターの確保が困難となっている。引き続き、高齢者や障がい者等の日常生活における困りごとに対し、見守りや買い物支援などの支援を行うため、サポーター数の確保に努める
- 地域防災力の維持・向上に向けて、引き続き、行田市防災士養成講座を実施し、防災士の資格取得を促進する
- 自主防犯活動団体は、構成員の高齢化に伴い団体の平均年齢が上昇し、休止・解散が見受けられるが、犯罪がなく安心して暮らせる地域づくりには欠かせないことから、団体に対して持続可能な体制づくりをサポートする

(3)健康長寿づくりの推進

A. R5年度に実施した主な事業

- ◆ 各種健康づくり推進事業(薬局を拠点とした健康づくり事業、健康づくりチャレンジポイント事業など)
- ◆ 地域包括ケアシステムの推進
- ◆ 高齢者の社会参加の促進

B. KPI(重要業績評価指標)の状況

KPI	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標値	達成状況
健康教室等参加者数	人		2,597	2,774	1,164	1,022	1,475	1,146	6,000	
シルバー人材センター会員数	人		350	359	342	334	329	345	410	
高齢者総合相談支援件数(訪問)	件		1,891	1,971	1,901	2,423	1,885	1,827	2,500	

C. 課題や今後の取組予定

- 市民の主体的な健康づくり活動を支援するため、引き続き各種健康づくり推進事業を実施する
- 高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を続けられるように、医療、介護、予防、住まい、生活支援などを一体的に提供する地域包括ケアシステムを推進し、介護予防の推進や生活支援体制づくりなどを進める
- シルバー人材センター会員数は、企業の定年延長などにより新規会員の確保が難しくなっている。今後も、入会説明会の開催やパンフレットの配架等により会員拡大を図る